

全ての人が自分らしく生きることが できる社会を目指して

性的マイノリティ当事者が抱える課題・困りごと

性的指向や性自認の多様性に関する社会の理解は、いまだ十分に進んでいるとはいえません。こうした中、性的マイノリティの多くの当事者は、偏見や差別を受け、生きづらさを感じたり、悩み・課題を抱えています。

【例】

- ・人間関係が壊れるという不安から誰にも打ち明けられず、孤立したり、職場や学校等で嫌がらせやいじめを受ける
- ・解雇や内定取消など深刻な事例もある
- ・自認する性でのトイレが使えず、利用を控える（健康に影響を及ぼすおそれ）
- ・書類の性別記載欄にとまどう など



性的マイノリティの尊厳と社会運動を象徴する「レインボーフラッグ」

上から赤（生命）・橙（癒し）・

黄（太陽）・緑（自然）・藍（平穏/調和）・

紫（精神）の6色で、性の多様性を表しています。

性的マイノリティであることなどを打ち明けられたら

まずは信頼して打ち明けてくれたことに謝意を伝えましょう。そして決して否定せずに、その人の話に耳を傾けましょう。相手が何を望んでいるのかをしっかりと受け止め、寄り添う姿勢を示すことが大切です。

本人の了解を得ずに、その人の性のあり方を周囲に公表する「アウティング」は、本人を傷つけ、裏切る行為です。絶対にダメ！



私たちは、さまざまな性のあり方が身近に存在することを当たり前のこととし、だれもが自分らしく生きることができる社会を築いていかなければなりません。